

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工をおこなってください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上の注意」をごらんください。

取扱説明書

取扱上の注意

取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

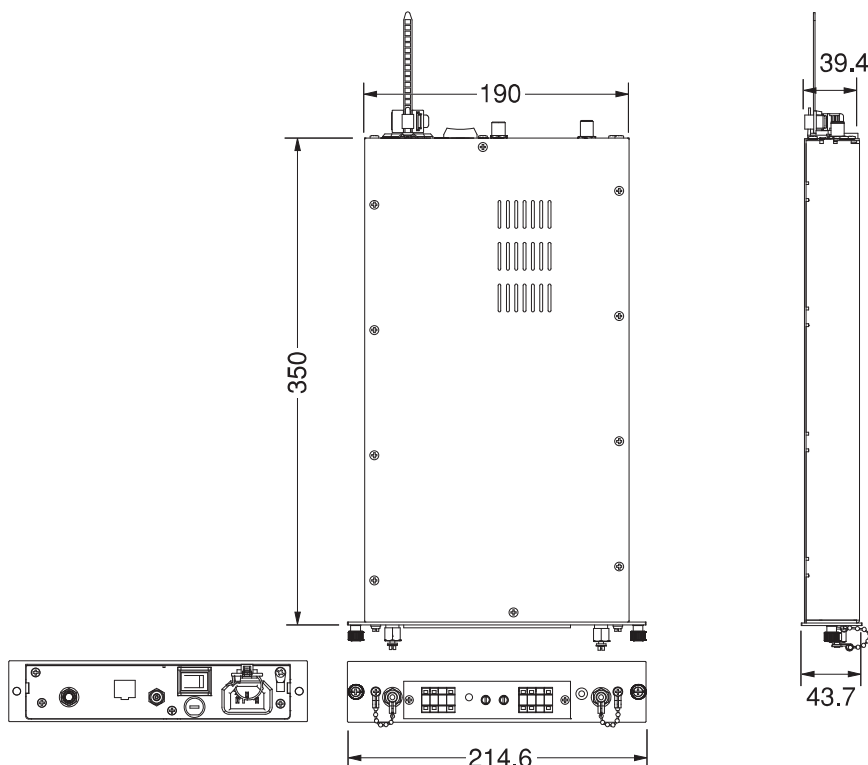
メンテナンス

いつでも明瞭なラジオ放送をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

目次

表紙	説明の始まるページ
(取扱説明書)	
取扱上の注意	1
メンテナンス	1
外観および寸法図	1
安全上の注意	2
廃棄上の注意	2
特長	3
付属品	3
各部の名称および機能	4
標準性能表	6
(施工説明書)	
関連法規	7
設置場所・条件	7
ユニット取付方法	7
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法	7
電源コードの接続方法	8
機能アースの接続	8
アラーム出力端子の接続方法	9
システム操作手順	10
システム例	11
保証書	12

外観および寸法図








単位：mm
質量：2.5kg以下

安全上の注意

絵表示について

この「安全上の注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例	
	△記号は注意(注意・警告・危険を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。)が描かれています。

警告

●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いてご使用ください。



●本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づけたり)引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。



●万一、本器を落としたり、破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



●本器の上面カバー(接続端子部カバーは除く)をはずしたり、本器を改造したりしないでください。また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

●万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



●万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



注意

●本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。



●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



●湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所(調理台や加湿器のそば)に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



廃棄上の注意

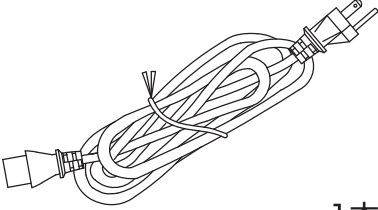
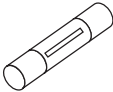


本器のすべて、または部品を廃棄する場合には、自治体の定めた条例にしたがって処理してください。

特 長

1. 本器は、FMラジオ放送波を受信して、CATVなどの共聴システムに再送信するための機器です。
2. FMラジオ放送任意の1チャンネルを受信し、不要な信号の除去・レベル調整をおこなった後、任意のFMラジオ放送1チャンネルに変換し送信します。
3. AGC機能により季節フェージングなどのレベル変動に対しても常に安定した出力レベルでの再送信が可能です。
4. 内蔵のスケルチ回路によって放送終了後も隣のチャンネルに妨害を与えません。また、スケルチ機能の解除も可能です。
5. 前面にあるチャンネル設定スイッチの操作で送受信周波数を任意に設定できますので、システムのバックアップ用にもご使用が可能です。
6. 背面にあるアラーム出力端子から、RF出力レベル低下時、スケルチ動作時、出力異常時にアラーム信号をそれぞれ出力します
7. 出力レベルは最大で110dB μ Vと高出力設計です。
8. 1Uサイズのシャーシに本器を2台取付けることができます。

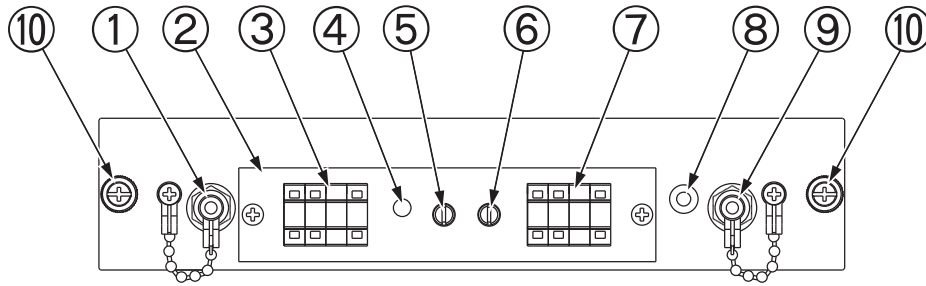
付属品

●お取り付けの前に下図の部品が間違いなく入っているか、ご確認ください。

ACケーブル	予備ヒューズ	取扱説明書	試験成績書
 1本	 1個	 1部	 1部

各部の名称および機能

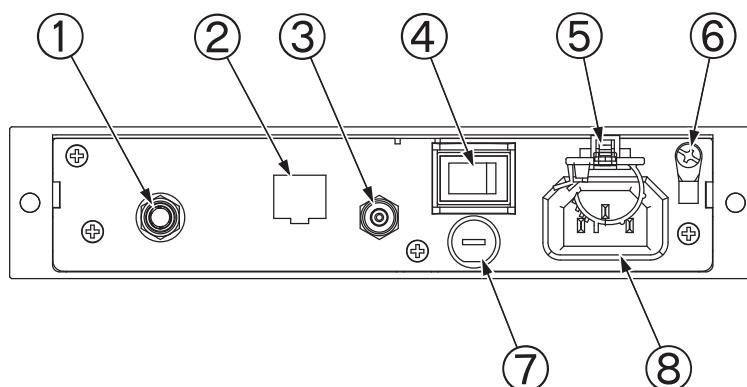
●前面



①	入力モニター端子	RF入力モニター（結合損失-10dB）です。
②	イタズラ防止パネル	入力・出力チャンネル設定スイッチ、スケルチ調整ボリューム、利得調整ボリュームのイタズラ防止パネルです。スイッチ・ボリュームを操作するときははずしてご使用ください。
③	入力チャンネル設定スイッチ	受信周波数設定スイッチです。受信するFMラジオ放送の周波数（76～95MHz、100kHzステップ）を設定してください。初期出荷設定は00.0MHzです。
④	電源ランプ／ スケルチ表示ランプ	電源スイッチを入れると点灯します。放送波を受信中は（緑）、スケルチ動作中は（赤）が点灯します。
⑤	スケルチ調整ボリューム	スケルチ調整ボリュームです。スケルチ動作は入力レベル45～55dB μ Vの範囲で設定可能です。また、ボリュームを左（最小）に回し切るとスケルチがOFFになります。
⑥	利得調整ボリューム	出力レベルの調整ボリュームです。0～-15dBの可変範囲があります。
⑦	出力チャンネル設定スイッチ	送信周波数の設定スイッチです。本器から出力される周波数（76～95MHz、100kHzステップ）を設定してください。初期出荷設定は94.9MHzです。
⑧	簡易音声モニター	アンプ内蔵スピーカー・イヤホンなどを接続し、受信信号の音声を確認できます。3.5 ϕ ステレオミニジャック・モノラル音声出力、出力レベルは530mVrms（開放端電圧）です。
⑨	出力モニター端子	RF出力モニター（結合損失-20dB）です。
⑩	本体シャーシ取付ビス	別売りのハーフラックシャーシ（HCOP-HRS）に固定する際に使用します。

各部の名称および機能

●背面



①	出力端子 (OUT)	RF出力端子 (F型接栓) です。 最大出力レベルは110dB μ Vです。
②	アラーム出力端子	RF出力レベル低下時 (RF OUT) 、スケルチ動作時 (SQ) 、出力異常時 (EQP) にアラーム信号をそれぞれ出力します。 (通常時：ショート、アラーム動作時：オープン)
③	入力端子 (IN)	RF入力端子 (F型接栓) です。入力レベル範囲は50~80dB μ Vです。
④	電源スイッチ	本器の電源メインスイッチです。
⑤	電源コード抜け防止機構	AC100Vインレットからの電源コードが抜けるのを防止します。
⑥	機能アース端子	アース線は ϕ 1.6~2.0mmの被覆銅線で完全に接地してください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因になることがあります。(D種接地工事：接地抵抗100 Ω 以下)
⑦	ヒューズ (5A)	定格5Aのタイムラグヒューズが付いています。
	⚠ 注意 必ず指定されたヒューズをご使用ください。機器の故障の原因になります。	
⑧	AC100Vインレット	AC100Vを入力します。指定の電圧以外の電圧は入力しないでください。
	⚠ 注意 必ず付属の電源コードをご使用ください。機器の故障の原因になります。	

標準性能表

項 目	性 能	備 考	
受信チャンネル	FM任意の1チャンネル	76~95MHz(100kHzステップ)	
送信チャンネル	FM任意の1チャンネル	76~95MHz(100kHzステップ)	
入力・出力インピーダンス (Ω)	75	F型接柱	
入力レベル範囲 (dBμV)	50~80		
最大出力レベル (dBμV)	110		
最大利得 (dB)	60以上		
入力・出力VSWR	2.0以下		
出力レベル調整範囲 (dB)	0~-15以上	連続可変	
帯域内偏差 (dBp-p)	2.0以内	fo±100kHz ※1	
帯域外減衰量 (dB)	40以上	fo±400kHz ※1	
スプリアス妨害比 (dB)	-60以下	10~770MHz	
AGC特性 (dB)	±0.5以内	標準入力±15dBに対して	
出力レベル安定度 (dB)	±1.5以内	0~+40℃	
スケルチ設定範囲 (dBμV)	45~55	※2	
周波数偏差 (kHz)	±10以内	周波数変換時	
入力モニター結合量 (dB)	-10±1.5以内		
出力モニター結合量 (dB)	-20±1.5以内		
簡易音声モニター出力レベル (mVrms)	530±10(開放端電圧)	3.5φステレオミニジャック ※3	
アラーム出力	接続形式	フォトカプラ絶縁NPNオープンコレクタ(DC30V 10mA MAX) 通常時：ショート アラーム動作時：オープン	RS-45型モジュラージャック
	動作条件	RF出力、スケルチ動作、出力異常 ※4	
不要放射 (dBμV/m)	34以下	3m法による	
耐雷性 (kV)	±15(1.2/50μs)	入力・出力端子、電源端子	
電源電圧 (V)	AC100±10%	50/60Hz	
消費電力 (W)	8以下	最大	
使用温度範囲 (℃)	0~+40	本体周囲温度	

※1 fo：中心周波数

※2 ボリューム最小にてスケルチ機能OFF

※3 簡易音声モニターはモノラル出力(左右同一音声)

※4 スケルチ非動作時に出力レベルが低下した状態、またはスケルチ動作時に出力レベルが低下していない状態

●本体シャーシ(ハーフラックシャーシ)

項 目	型 名	H COP-HRS
外観寸法 (mm)		44(H)×483(W)×220(D)
質 量 (kg)		1.0

●ブランクパネル

項 目	型 名	HRCOPBP
外観寸法 (mm)		44(H)×214.6(W)×2(D)
質 量 (kg)		0.15

施工説明書

関連法規

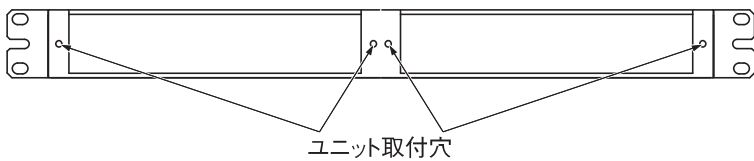
この製品は電波法などが適用されます。

設置場所・条件

- 高温の場所、直射日光にあたる場所、有毒ガスなどの発生する場所は避けてください。
- 電機配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所を避けてください。
- メンテナンスに容易な場所を選定してください。

ユニット取付方法

● 本体シャーシ (HCOP-HRS)



- ① ユニートを本体シャーシに差し込みます。
- ② 付属のフロントパネルの左右にある固定ねじを使用して、しっかりと固定してください。

ブランクパネルを取付ける場合は、パネルの表裏に注意して固定してください。

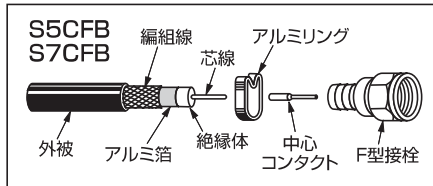
● ユニット固定ねじ締付トルク 0.6N・m (6kgf・cm)

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法 (別売品)

◆ 用意するもの

カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ、圧着工具。

■ 各部の名称

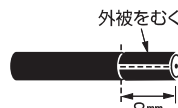


ポイント

- 絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。
- 芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにとってください。
- 同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。

● F型接栓締付トルク 2.0N・m (約20kgf・cm)

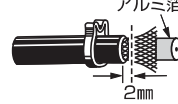
- ① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。(深さ1mm程度)



- ② 外被をむき、アルミリングを通しておきます。



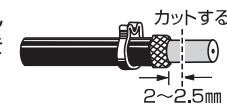
- ③ 外被から2mm程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。



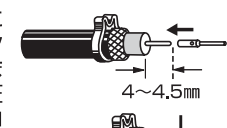
- ④ 編組線をめくり返します。



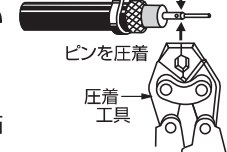
- ⑤ 編組線から2mmはなしてアルミ箔、絶縁体を切り、抜きとります。



- ⑥ 芯線を4~4.5mmにカットし、中心コンタクトを芯線に根元まで挿入してペンチ、圧着工具などで中心コンタクトが抜けにくいようカシメます。



- ⑦ F型接栓をアルミ箔と編組線の間にはし、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりとつぶしてください。



注意

加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因になります。

電源コードの接続方法

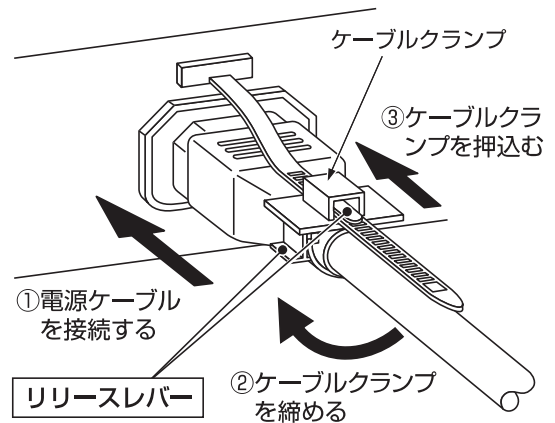
外部からの電源コードの接続は、以下の手順でおこなってください。

- ①電源端子は、本体の背面にあります。(各部の名称および機能をご参照ください。)
- ②電源コードを19インチラック内へ引き込み、接続してください。
- ③下図を参照し、電源コードの抜け止め処理をおこなってください。

⚠️ 注意 作業を始める前に必ず供給元電源装置がOFFになっていることをご確認ください。感電の原因になります。

⚠️ 注意 本器には同梱された電源コードセットを使用してください。また、同梱された電源コードセットは、他の製品に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

ポイント 電源コードは、AC100Vインレットにしっかりと押し込み、容易に抜けないことを確認した後に、抜け防止処置をおこなってください。押し込みが不十分なまま抜け防止処置をおこなうと、電源コード抜けの原因となることがあります。

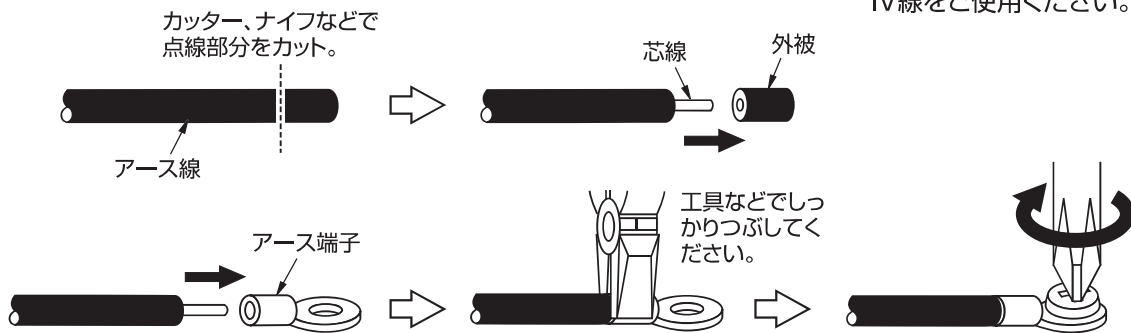


機能アースの接続

- ①アース線先端の外被をはがしてください。
- ②アース端子にアース線を通して、圧着工具でかしめてください。
- ③アース端子をシャーシにねじ止めしてください。

ポイント

アース線はφ1.6~2.0mmのIV線をご使用ください。



⚠️ 注意 アース接続は必ずおこなってください。接地がおこなわれないと感電や機器の故障の原因となります。(接地抵抗 100Ω以下：D種接地工事)

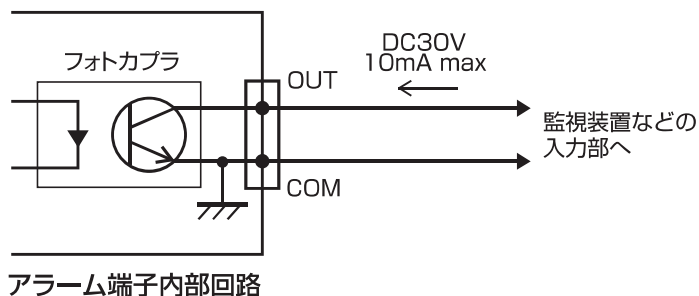
⚠️ 注意 電源プラグは保護接地付きの3ピンです。電源コードで接地する場合はアース端子付きACコンセントに接続してください。

アラーム出力端子接続方法

本器は背面アラーム出力端子よりアラーム情報を出力します。アラーム内容は以下の3種類です。

- RF OUT：出力レベルの低下
- SQ：スケルチ動作
- EQP：出力異常(※)

出力形式はフォトカプラ絶縁NPNオープンコレクタ出力で、OUT-COM間において通常時はショートモード、アラーム動作時はオープンモードとなります。

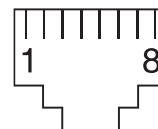


●アラーム端子説明図

アラーム信号は、下表のようにRJ-45型コネクタの1～8の各端子に割り当てられています。

端子番号	本体表示	内容
1	EQP	出力異常
2	SQ	スケルチ動作
3	RF OUT	出力レベルの低下
4～8	COM (FG)	共通端子 (接地あり)

●RJ-45コネクタ内部端子配列



※出力異常のアラーム (EQP) は、スケルチ非動作時に出力レベルが低下した状態、またはスケルチ動作時に出力レベルが低下していない状態のどちらかでオープンになります。本器の動作状態と各アラーム出力の関係は下表の通りです。

アラーム出力		機器の動作状態				
		出力レベル正常	出力レベル低下	スケルチ動作	スケルチ非動作	電源OFF
RF OUT		ショート	オープン	—	—	オープン
SQ		—	—	オープン	ショート	オープン
EQP	スケルチ動作	オープン	ショート	—	—	オープン
	スケルチ非動作	ショート	オープン	—	—	

ポイント 入力最大容量はDC30V 10mA以下です。必ず監視装置側の仕様をご確認ください。

⚠注意 ケーブルの抜き差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。機器の故障や感電の原因になります。

システム操作手順

HRSP21FUは、前面の入力・出力チャンネル設定スイッチを操作することにより、受信・送信周波数を任意に設定することが可能です。なお周波数の設定に伴い、スケルチ動作レベルの設定(受信周波数設定時)、および出力レベル調整(送信周波数設定時)も必要となりますのでご注意ください。

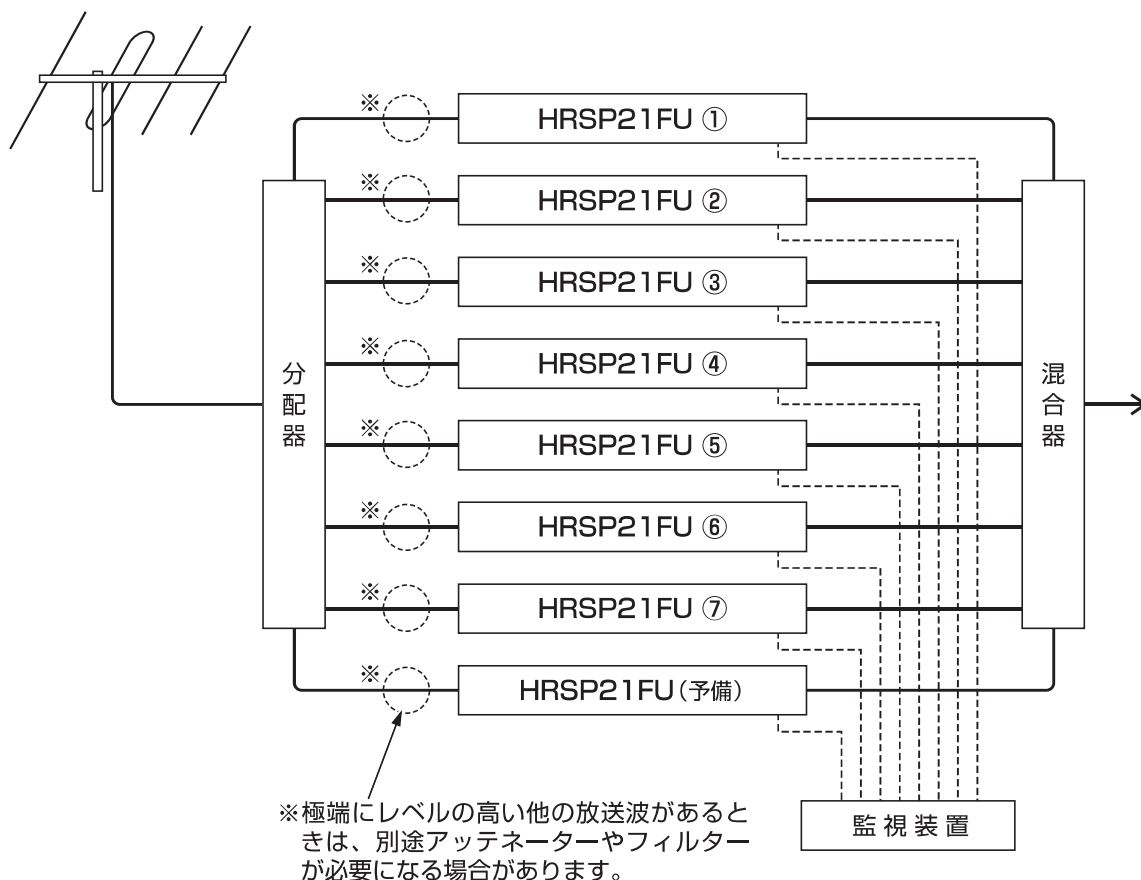
1. 電源を入れる前に、本器の設置場所や、電源コード・アース端子・アラーム端子の結線が正しくおこなわれているかを確認します。
2. 受信周波数を設定します。入力チャンネル設定スイッチによりFMラジオ放送の1チャンネル(76~95MHz、100kHzステップ)を任意に設定できます。ただし、00.0~76.0MHzまたは95.0~99.9MHzに設定すると強制的にスケルチが動作します。初期出荷設定は00.0MHzです。
3. 送信周波数を設定します。出力チャンネル設定スイッチにより、FMラジオ放送の1チャンネル(76~95MHz、100kHzステップ)を任意に設定できます。ただし、00.0~76.0MHzに設定した場合は76.1MHz、95.0~99.9MHzに設定した場合は94.9MHzの信号を出力します。初期出荷設定は94.9MHzです。(※1)
4. 電源スイッチをONにすると電源ランプ/スケルチ表示ランプが赤く点灯します。
5. 本器へ入力する放送波(FMラジオ放送)の周波数および信号レベルをスペクトラムアナライザーなどで確認します。入力レベル範囲は50~80dB μ V、標準入力レベルは65dB μ Vです。受信周波数の信号レベルがこの範囲に入るようにしてください。(※2)
6. RF入力端子に同軸ケーブルを接続し、受信した放送波(FMラジオ放送)を入力するとスケルチ表示ランプが緑に変わります。
7. 入力レベルの確認は入力モニター端子(-10dB)でもおこなえます。入力レベルに対し、-10dBの値を示します。
8. 音声モニター端子(3.5 ϕ ステレオミニジャック)にアンプ内蔵スピーカーやイヤホンを接続し、受信チャンネルの音声を確認できます。(※3)
9. スケルチ機能の動作レベルを設定します。本器への希望波の入力レベルを可変アッテネーターなどでスケルチを動作させたいレベルに合わせ、スケルチ表示ランプが緑から赤に変わるポイントまでスケルチ調整ボリュームを回してください。スケルチ動作レベルは入力45~55dB μ Vの範囲で設定可能です。設定終了後、可変アッテネーターなどで入力レベルを変化させ、スケルチ機能が正しく動作することをご確認ください。(※4、※5)
10. 出力レベルの調整をおこないます。工場出荷時は利得調整ボリュームが最小となっておりますので、伝送システムのレベルダイヤグラムに合わせて調整してください。(※5)最大出力レベルは110dB μ V、出力レベル調整範囲は0~-15dBです。出力レベルの調整が終了したら、RF出力端子に同軸ケーブルを接続します。
11. 出力レベルの確認は出力モニター端子(-20dB)でもおこなえます。出力レベルに対し、-20dBの値を示します。

●調整のポイント

- ※1. 出力周波数は他の放送波から500kHz以上離れた周波数に設定してください。
- ※2. 希望する受信周波数に対し極端に高いレベルの放送波があると、音声に雑音が入ったり、正常に放送を受信できなかったり、他の放送波に妨害を与えてしまう恐れがあります。AGCの範囲内で受信レベルを下げることで改善される場合もあります。ただし、フェージングなどで希望周波数のレベル変動が大きいときには別途フィルターの併用をご検討ください。
- ※3. 簡易音声モニター端子はモノラル出力です。ステレオスピーカーなどを接続してステレオ放送を受信した場合、左右から同じ音声が聞こえますが故障ではありません。
- ※4. スケルチ機能は必要に応じてOFFにすることも可能です。スケルチ調整ボリュームを左(最小)に回し切るとスケルチOFFとなり、入力レベルが低下してもスケルチが動作しません。
- ※5. ボリューム調整は軽く回る範囲内でおこなってください。無理に回したり押しつけると、機器の故障の原因となります。
- ※6. 入力チャンネル・出力チャンネル設定スイッチ、スケルチ調整ボリューム、利得調整ボリュームの操作はイタズラ防止パネルをはずしておこないます。調整が終わりましたら必ずイタズラ防止パネルを取付けてください。

システム例

●FM7波+予備1波のシステム例



上記システム例の場合、予備器は次のように設定します。

- ①入力チャンネルを00.0～76.0MHz、95.0～99.9MHzのいずれかに設定してください。
- ②スケルチ調整ボリュームを最大(右に回し切った状態)に設定してください。
- ③利得調整ボリュームを最小(左に回し切った状態)に設定してください。
- ④出力チャンネルを他の放送波と500kHz以上離れた空き周波数に設定してください。空いている周波数がない場合は94.9MHzに設定します。
- ⑤他のシグナルプロセッサの故障などで予備器を使用する場合は、P.10のシステム操作手順に従って受信周波数、送信周波数、出力レベル、スケルチ動作レベルを設定してください。

2. 保証期間内でも次の場合には有料修理とさせていただきます。
 - ①使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - ②お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
 - ③火災、爆発事故、落雷、地震、噴火、水害、津波など天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷。
 - ④海岸付近、温泉地等の地域における公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)など腐食性の空気環境に起因する故障および損傷。
 - ⑤ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する故障および損傷。
 - ⑥異常電圧、電気の供給トラブルなどに起因する故障および損傷。
 - ⑦用途以外で使用した場合の故障および損傷。
 - ⑧塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
 - ⑨消耗部品の消耗に起因する故障および損傷。
 - ⑩日本国以外で使用された場合の故障および損傷。
 - ⑪本書のご提示がない場合。
 - ⑫本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
3. ご贈答品などで本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合は、最寄りの弊社支店・営業所・出張所に連絡ください。

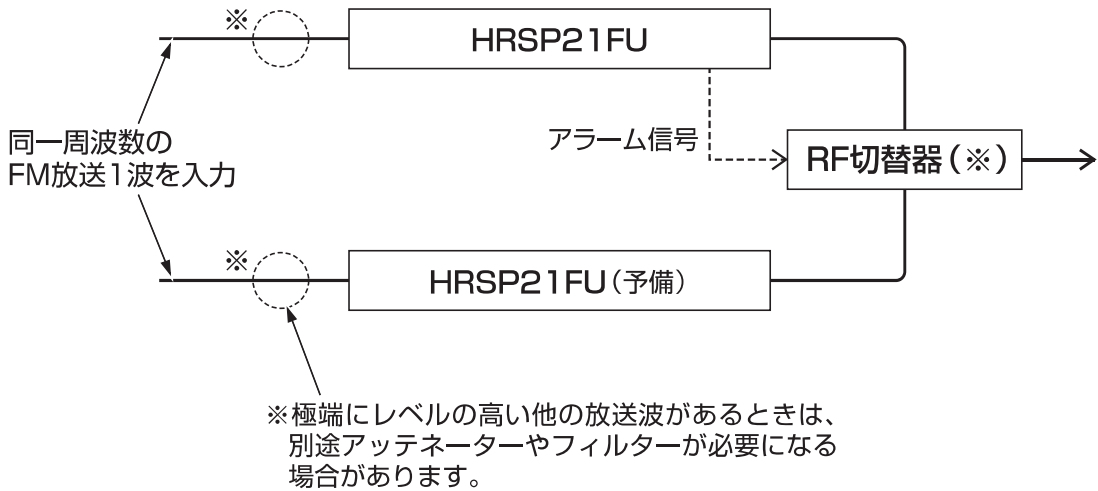
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
(This Warranty is valid only in Japan)
5. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。

システム例

●FM1波 冗長化システム例



※弊社製RF切替器の外部コントロール機能を使用することで、自動バックアップシステムの構築が可能です。

- メイン側のHRSP21FUからアラーム信号が出力されると自動的に予備に切替わります。
- 予備側の入力チャンネル、出力チャンネルはメイン側と同一周波数に設定してください。
- RF切替器の使用方法等については各製品付属の取扱説明書をご確認ください。

お客様窓口



0570-091039

ナビダイヤルが利用できない場合は ☎(03)3893-5243

ご利用時間 9:00~12:00 13:00~17:30(土・日・祝祭日・弊社休業日を除く)

日本アンテナ株式会社

本社/〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03)3893-5221(大代)

(ホームページアドレス) <http://www.nippon-antenna.co.jp/>

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

5105360 平成27年12月

保証書

型名	HRSP21FU		製造番号
お客様	お名前		
	ご住所		
		電話番号 ()	
お買上げ日 年 月 日		取扱販売店名・住所・電話番号	
保証期間(お買上げ日より) 本体1年 (但し消耗品は除く)			

この保証書は、本書記載内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。なお弊社支店・営業所・出張所は弊社ホームページをご覧ください。

〈無料修理規定〉

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
① 無料修理をご依頼される場合は、商品に本書を添えてお買上げの販売店にお申し付けください。
② 修理対象品を直接当社支店・営業所・出張所まで送付された場合の送料はお客様負担とさせていただきます。また、出張修理をおこなった場合、出張料はお客様負担とさせていただきます。

(裏面に続きます)



日本アンテナ株式会社

本社 〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8
☎(03)3893-5221(大代)